

当店の経験から、誰でも上手に出来る水貼りの方法をご紹介します。

用意する物

- 木製パネル
- 刷毛
 - 水を付けるため、幅が広くて柔らかい物。
(幅 12cm程度が使いやすい)
- 撫で刷毛
 - 壁紙を貼るときに使うような、腰の強い刷毛。
(無かったらタオルで代用)
- 下張り用の和紙
 - 鳥の子紙等、厚めの和紙
- 水張りテープ、糊、木工ボンド
- 本紙 (水彩紙や日本画用紙)



水刷毛



撫で刷毛



下張り無しのため、作品の裏にしみ出した灰汁

紙を用意します

- 1) 下張り用紙、本紙共にパネルサイズに合わせて裁断します。
張りしろが必要、長手、短手共に、
(パネルサイズ + パネルの厚み × 2 - 10mm) が裁断の目安です。
- 2) 紙は水分を吸うと伸びるので、水を付けた後再び調整します。

下張りをします

- 3) 下張り用紙の裏面に水を塗ります。
しっとりとしたら、木工ボンドと糊
(市販のやまと糊が良い) を混ぜた糊を全面に塗ります。
(混合比は 5:5、或いはボンドを多めにすると、使いやすい糊が出来ます。)
- 4) 糊が乾かないうちに、良く拭いたパネルの表面に裏返して乗せ、撫で刷毛で紙をのばしながら貼り付けます。
周りはパネルの側面の木部に、上記の糊を付けて張り込みます。
コーナーは切らずに折り込んで張ります。
- 5) 本紙を張る前にこれを良く乾かします。
濡れた状態で本紙を張ると、本紙まで一気に灰汁が上がるので、必ず乾かします。

ベニヤの表面を濡れ雑巾で丁寧に拭きますがこの時取れるのは、との粉等のベニヤの化粧仕上げ材で、灰汁とは別物です。拭いただけでは灰汁の流出を止めることは出来ません。

ボンドと糊は小さなペットボトルに入れ、お湯を少量入れて振ると簡単に混ぜることが出来ます

なぜ下張りをするの？

下張りをしないと、本紙がベニヤ板の灰汁を吸って、作品の黄ばみ、痛みの原因となります (写真上)。
灰汁は強アルカリ性の物質です。
制作時点での紙の黄ばみは目立ちませんが、長時間経つとすっかり黄変する例もあり、紙を傷めるので灰汁止め作業は重要です。

ベニヤから出る灰汁を止めるには、灰汁止め塗料を塗る方法もありますが、パネルには和紙を貼る方法が最も簡単です。
下張りの仕方として袋張りなどの方法もありますが、パネルを繰り返し使う場合は、厚めの和紙をべた張りするのが、再利用の際に便利です。
私どもの店では、この方法で長年パネルを繰り返し御利用のお客様がたくさんおられますが、未だに灰汁は上がっていませんので、お奨めできます。

水彩紙を張ります

本紙を張りますが、水彩紙と日本画用の和紙とでは、張り方が違います。
水彩紙の場合、糊を使わずに水張り用のテープだけでパネルに止めます。

- 1) 水彩紙を裏返してパネルの上に置き、全面にたっぷりと水を塗ります。
- 2) しばらく置くと表面の反射が無くなり、しっとりしてくるので、さらに水をたっぷりと塗ります。
- 3) 以上を 3~4回 (厚い水彩紙の場合は 4~5回) 繰り返して、充分に水を吸わせます。
- 4) 紙の腰が、しなりと柔らかくなったのを確認して裏返します。
- 5) 撫で刷毛で、外側に向かい空気を追い出し、紙を伸ばします。
- 6) 側面を折り込んで水張りテープで張り込みます。(糊を使わない浮かし張りです)
- 7) 乾燥は必ず平らにおいて乾かします。立てて乾かすと上から先に乾き、下からシワが入ります。

ヒント

一人で大きな紙を貼る場合、折り込んだ側面は、水張りテープやセロテープなどで、何力所か仮止めをして置くと上手に張れます。
コーナーは切らないで折り込みましょう。
四隅にシワが入って綺麗にいかない場合は、殆どが水の不足です。時間を掛けてゆっくり水を含ませてから張って見てください。

日本画用和紙を張ります

和紙は水の馴染みが良くて簡単に貼れます。
水の分量も少なくても済み、2~3回塗れば綺麗に仕上がります。

水彩紙との違いは、側面をのり付けすることです。日本画絵の具に使われる膠が乾燥するときに収縮するので、糊でしっかり貼っておかないと制作中に剥がれます。

側面に使う糊は後で剥がすことが出来るように、普通の糊を使い、写真のように紙の裏とパネルの側面に糊を付けて張り込みます。
水平にして乾かします。

和紙は水を付けると大変良く伸びます。張るときに余り伸ばしすぎると、乾燥途中でパネルが変形します。



たっぷり水を付けます



刷毛を使い紙を伸ばします



水張りテープで周りを止めます



和紙は周りを糊止めします